

# 【編集後記】

## 《 24生 》

今号と次号で編集長を務めることになりました、上野です。今号は前号とは違い、先輩方が引退され、先輩方の偉大さがよく分かりました。私は編集長という、他の委員をまとめていかなければいけない立場になったわけですが、たったの6人でも、上手くまとめていくのが非常に難しいことが分かりました。また当初は、かなり余裕をもって締め切りを設定していたはずなのですが、結局ドンドン押ししまい、その結果、初稿の提出期限を2日過ぎてしまうことになりました。本当に申し訳ありません。次号は新しく新入生も入ってくるということで、人数が増える為、今以上に綿密なスケジュール管理が必要になってくると思うので、頑張っていきたいと思います。また、私は今号で、特に、表紙・裏表紙と輝いている人紹介、および全体のレイアウトを頑張りました。編集委員が協力して作ったこの一冊。ぜひ、手に取ってもらえると嬉しいです。

上野 裕介

今回は本当に時間がなかった。締め切りに追われる作家さんや働く大人やレポートが終わらない大学生の気持ちを味わうことができました。私の行動が遅いのが悪いのですが。そんな中でも研究室紹介の取材は勉強になりました。先生と一対一で話すこと。それを自分の手で大勢の人に発信すること。なかなかできない経験です。取材を受けてくださった先生、OB・OGさん、貴重なお話を聞かせてくださりありがとうございました。来年度も飛翔に関わりたいたいと思います。

岡添 りえ

私は今これをフランスで書いています。副編集長にもかかわらず締め切りを守らず、編集長に任せっきりでご迷惑をおかけしました。アンケート頑張ったので楽しんでもらえれば嬉しいです。

藤本 迪子

研究室訪問で普段触れる事のない物理の話をじっくり聞けた事が今回の飛翔作成での1番の収穫です。こうして自分の知らない世界の話にもっと首を突っ込んでいきたいなと改めて思いました。

栗栖 千尋

後期もいろいろな人たちが協力し合って「飛翔」を完成させました。飛翔を通して、私は取材などの楽しさを味わいました。取材するとき、取材の内容だけではなく、先生や先輩たちからいろいろな面白い話も聞かせていただきました。しかし、文章までの道は辛いと実感しました。そこで、週刊誌など短い期間で発刊する雑誌の編集者への尊敬と感心の心が自然に生まれてきました。それでも、私たちは頑張ったこの「飛翔」を作りましたので、みなさんぜひ読んでください。

江 永如

私は、前期が楽しかったという理由で、後期も編集委員をすることにしましたが、後期は 24 生の飛翔編集委員が激減 (!) してしまいました。前期が多すぎたのかな？ また、前期は取材と原稿の執筆だけやって、あとは先輩にまかせっきりにしていたのですが、後期はそういうわけにもいかず……。編集者はこんなことをしているのか、ということが少しわかりました。私は平編集委員でしたが、編集長・副編集長をしてくれた三人の皆さん、ありがとうございました。個人的には、研究室紹介の取材の後の、先生とのお話が印象に残っています。

原田 みずほ

## 《教員・事務の方々》

編集委員の皆さん、お疲れさまでした。総科が新たに生まれ変わるこのタイミングに、新しい総科の在り方を知ると同時に、改めて総科の魅力に触れられる内容になっていると思います。総科の魅力って、何だ？ 教員も学生も、素晴らしい意味で、「変人。」が多い！

崔 真磧

編集者の方々、ご苦労様です。飛翔 83 号には多くの先生の現在のご研究や学生時代のことが掲載されていて楽しく読ませて頂きました。また、来年度は変革の年です。どのように変わっていくのか、副研究科長の和田先生からの説明もあり、総科の学生さんにも教官にも良い情報源となったように思います。最後の「マブルーカ・ザルイさんを偲んで」からは、行動力あるチュニジア出身の総科の先輩について知ることができました。チュニジア女性日本「語」体験記はぜひ手にとって見たいと思います。今回の飛翔編集は人も少なく時間もなく相当大変だったようですね。けれど、岡添さんも書かかっているように、先生と 1 対 1 で話をし、その内容をまとめて大勢の人に発信する経験は学生さんにとって大変貴重なものと思います。この経験を糧に、また新たなことに挑戦して下さい。

佐藤 明子

大学が『教養』ではなく、「資格」とか「人材育成」といった言葉で評価される時代になって久しくなりますが、近年、『教養』という言葉をもた耳にするようになりました。実は『教養』が生きていく上でのツールではないけれど、大切なものであることが再認識されています。飛翔 83 号の寄稿を読ませていただき、総合科学部の「教養」を感じているところです。私ごとになりますが、まだ教養部が存在していた頃の大学に入学しました。生きていく技術、能力に長けていませんが、いまの自分を楽しむ術はその頃学んだことがベースにあるように思います。「飛翔」の編集を通じて、号を重ねる毎に「教養」を積み重ねていってほしいと祈念しています。追伸：今号では、懐かしい先生のお名前や留学生の近況に触れることができました。ありがとうございました。

木田 恵子

表紙・裏表紙の写真

タイトル／撮影者／コメント

表紙上段

『総科棟周辺』／上野裕介／サークル棟の屋上にて。たまたま見つけた絶景に思わずシャッターを切りました。

表紙中段

『豊かな自然』／岡添りえ／構内には自然がいっぱい。散歩でもしてみてもどうでしょう？

表紙下段

『彼岸花』／藤本迪子／田口に咲く彼岸花。西条は自然がいっぱいです。

裏表紙上段

『ブルーバールの秋』／栗栖千尋／燃え盛るよ  
うな木が青空の元で映えているお気に入りの風景です。

裏表紙中段

『西図書館』／原田みずほ／利用方法は様々。  
かなりお世話になっています。

裏表紙下段

『オレンジ』編集長／江永如／うちの編集長が  
頑張って飛翔の編集をしているよ。



# Faculty of Integrated Arts and Sciences



総合科学部報『飛翔』  
2013年3月発行 通巻83号  
広島大学  
総合科学研究科・総合科学部  
広報出版委員会  
〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1  
TEL 082-424-6320